



できるような計画にしたいと考えております。

苦小牧駒澤大学は、文部科学省により経営移管が認可され、市内唯一の四年制大学が存続することになりました。本市としても、経営移管先である学校法人京都育英館の経営方針を踏まえ、密に連携し、できる限りの協力をしております。オール苦小牧で新たな大学を育てていくつもりですので、今後とも皆さまのご協力をお願いします。

また、子育て支援と地域交流の拠点をつくるために、沼ノ端交流センターを新設いたします。多目的ホールや児童センターなどを設置し、幼児から高齢者、さらには子育て世代といった全ての市民に利用してもらえりような施設にまいります。

さらに、ウトナイ地区の生徒数の増加に対応し、ウトナイ中学校を新設します。安全安心に配慮した防犯カメラの設置、さらには避難所機能としての防災備蓄倉庫の配置など、地域に愛される学校にまいります。

地方版図柄入りナンバープレートにつきましては、本市の知名度向上および郷土心の醸成に資すると考えており、導入意向を表明したところでございます。今後、図柄のデザインなどを検討し、平成32年（2020年）の導入に向けて準備を進めてまいります。

他にも、現在は部署ごとに管理されている業務システムを統合した、総合行政システムの構築を進め、事務処理の簡素化と管理コストの適正化を図ってまいります。また、システムの一元化を機に、市民サービスの進化を目指し、総合窓口設置に向けた検討を進めてまいります。

私にとって、今年が任期最終年となりますが、本市の将来に向け、次世代のために何ができるのか、何を

残すことができるのか、20年先を見据えたまちづくり我真摯に取り組んでまいりたいと考えております。結びに、市民の皆さまのご健勝とご多幸を祈念申し上げます、新年のご挨拶いたします。



苦小牧市長
いわくら ひろふみ
岩倉 博文

表紙から おもちつき



しみず保育園で毎年恒例のおもちつきが行われました。アツアツのおもち米を先生たちが杵でこねて、だんだんおもちらしくなってきたら、いよいよ子どもたちの出番です。杵の重さにふらつきながらも、元気な「よいしょー」の声に合わせておもちをついていました。つきたてのやわらかいおちは、砂糖じょうゆを絡めて味わい、たくさん笑顔が広がりました。

広報とまこまいは、誰もが
が見やすいように、ユニバー
サルデザインフォントを
使用して作成しています。
また、植物油インキ、古紙
80%以上の再生紙を使用し、
環境に配慮しています。

